

LUNCHEON SEMINAR 6

ランチョンセミナー6

新製品 FINESIA Relios TL に関して

■会

場：第1会場

(幕張メッセ 国際会議場 2F コンベンションホールA)

■セミナー日時：

7.7 2024



12:20-13:00 (40分) (予定)

座長

鮎川 保則 先生

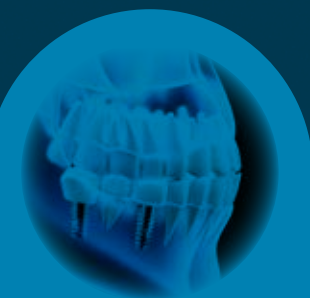
九州大学 歯学部 大学院歯学府
大学院歯学研究院 教授



演者

澤瀬 隆 先生

長崎大学 大学院
医歯薬学総合研究科 教授



京セラ株式会社 メディカル事業部

〒612-8501 京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地
<https://www.kyocera.co.jp/prdct/medical/>

共催：第133回 日本補綴歯科学会学術大会、京セラ株式会社

Tissue Level Implantのすすめ

Advancement of Tissue Level Implant

長崎大学生命医科学域口腔インプラント学分

澤瀬 隆 先生

2017年インプラント周囲骨質に着目したFINESIA®インプラントにつづき、昨年インプラント材質と表面性状を改質したFINESIA® Relios BL (Bone Level) インプラントが上市された。さらに今年6月にはFINESIA® Relios TL (Tissue Level) が発売され、Albrektssonが提唱したオッセオインテグレーション獲得のためのインプラント体に求められる、材質、デザイン、表面性状の3要素すべてが一一新されたことになる。

昨今のインプラント治療においては、CAD/CAMの大きな波とともに、さまざまなソフト・ハードティシュマネージメントの定着から、ボーンレベルインプラントが好んで用いられているように感じる。しかし、ボーンレベルインプラントは、骨上縁近傍に接合部を持つことから、アバットメントあるいはダイレクト構造においては上部構造の形態やその取り扱いに精緻さを求められ、それらの不備による辺縁骨の吸収などの併発症も報告されているところである。一方でティシュレベルインプラントは、骨内埋入部と粘膜貫通部が一体となる構造であるため、理想的なエマーゲンسプロファイルを担保し、マイクロギャップは存在せず、さらに当然のごとくone abutment one time conceptを達成する。

本ランチョンセミナーでは、FINESIA® Reliosのご紹介とともに、あらためてティシュレベルインプラントの利点を考察したいと思う。